

## 2 学力向上アクションプラン

横浜市立新鶴見小学校  
令和3年度 学力向上アクションプラン

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
しんじる つながる みちをひらく 新・鶴・見！ ①興味をもって、自ら進んで学習に取り組む力を育てます。(知) ②自ら判断する力と、人を思いやる心を育てます。(徳) ③自ら運動に親しみ、すこやかな心と体を育てます。(公) ④人とのつながりを大切にし、地域を愛する心を育てます。(公) ⑤多様な考えを認め、共に生きていく力を育てます。(開)	<他者・理解> <地域を愛する気持ち> <主体性> <あきらめない心>

#### (2) 中期取組目標

中期取組目標
○教育目標の実現に向けて、自分を信じ、仲間と地域とつながり、未知なる道を自分たちの力で切り拓く子どもの育成を目指します。 ・学習の楽しさを実感できる授業作りを推進し、子どもの思いや考えを大切にしながら授業を進めます。 ・誰もが安心して楽しく学校生活が送れるよう、一人ひとりを見取り寄り添います。 ・地域の人たちとのつながりを意識し、豊かな体験を通して地域を愛する心を育てます。

#### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①基礎・基本が身に付くように、既習を活用した授業づくりやスキルタイムを実施するとともに、習熟度に応じた支援を行う。
担当	②学年での教材研究を日々行いながら授業づくりに取り組み、子どもの主体性や表現力をより高めていくようにする。
教育課程・評価	

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

#### (1) 学力の概要と要因の分析

これまでの調査結果から、本校の学力は、学年が上がるにつれて学力や学習への意識が市の平均を下回る傾向があると考えられる。以前から算数は課題に挙がっており、スキルタイムや習熟度別学習に取り組み、学力向上を目指してきた。その結果、算数は市の平均に近付いていることが分かる。一方で、国語・社会・理科は算数に比べて、市の平均と大きな差がある。特に社会や理科では、情報収集の仕方や獲得した知識の活用法に課題が見られた。

これらの要因として、学習課題の分かりにくさや学習活動の目的と意味などが子どもに浸透しにくい授業になっていることが考えられる。学年が上がるほど、学習量が増え、子どもの思いと離れがちになってしまう。これは生活意識調査でも明らかで、学習の楽しさを感じていない子どもが増えている。このような課題を踏まえて、分かりやすく取り組める授業づくりに努めることを大切にしたい。

#### (2) 教科学習の状況

各教科で体験的な活動や共通経験を基にした話し合い活動、フィールドワークを取り入れた学習を展開している。厳しい制約はあるものの、地域の人たちとともに植物を育てたり、道具の使い方を教えてもらったりすることで具体的な学びを成立させようとしている。一方で、具体的な学びが、抽象化または一般化する学びにたどり着くことが難しい。関わり方や時間の制約があることで、安全に学ぶことを優先していることから、子どもの思考を十分に表現できる状況を提供できていない。今後は、子どもが主体的に学び、表現をより豊かにできる授業づくりに努めたい。

### 3 令和3年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	○自分や友達の良いところに気づき、表現する	・子どもの思いや願いを大切にしながら学習活動を組み立て、子ども自身がめあてや見通しをもって主体的に活動に取り組めるようにする。	・感染症予防対策の上、ペア、グループ学習において自分や友達の良いところを見つけて互いに表現し合えるような場を設け、自信をもって活動に取り組めるようにする。
2年	○好奇心をもって、課題を見付け、最後まで取り組み続ける力	・意欲を連続・発展させて主体的に取り組むことができるようにするために、教科・領域等での相互の関連付けを図りながら、子どものこれまでの経験や、「やってみよう」という思いに寄り添った学習活動を展開する。	・友達や自分のよさに気づき、認め合うことができるようにするために、感染症予防に配慮しながら、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、一人ひとりの子どもが話したり、活躍したりする場面を多く設定する。
3年	○人とのつながりを大切にし、他者を思いやる力	・友達との関わりの中で、自分の思いや考えを伝える楽しさを味わい、主体的に学習活動に取り組めるようにする。可能な限り対話をする場を位置付け、他者を理解する態度を育む。	・疑問に思ったことを解決したいという思いを大切に、自ら進んで問題を解決していこうとする力を育てる。単元の導入を工夫し、子どもの思いや願いに寄り添った学習活動を行う。
4年	○興味・関心をもって、自ら進んで粘り強く学習に取り組む力	・人との関わり合いの中で、相手を意識させ、ルールを守る心や相手を思いやるマナーを身に付けさせていく。基礎的・基本的な学習のルールの徹底。家庭学習を充実させ、学習内容の定着と習慣化を図る。	・他者や自分のよさに気づき、認め合う活動の充実を図る。「学習意欲を喚起する学習課題の提示」「ねらいの明確化」「考える時間、話し合う時間の確保」など日々の授業を向上させる。
5年	○主体的に学び、つながりを考え、合意形成する力	・学習課題を、分かりやすい、取り組みやすいものにしたたり、学習する意味を捉えやすくしたりするなどして、学習を楽しめるよう配慮する。その中で、互いの考えを気軽に共有できる環境を作る。	・学習課題を、前期よりも少しレベルアップし、学習に対する意識を高められるようにする。考えを伝える際に自分にとって最適なツールを見付け、それを活用し、思考力を高めていけるようにする。
6年	○主体的に伝え合うことで視野を広げる力	・ノートをはじめとして、ワークシートや短冊などを用いて、子どもの思考を可視化することで、思考の広がりや深まりを大切にする。これによって、子どもの言語表現がより豊かになるように取り組む。	・豊かな言語表現を基に、視点を明確にした話し合い活動を重点的に行う。人の思いや考えを比較・関連・総合して、自分の考えを広げたり、深めたりすることを目指す。
個別支援学級	○社会生活との関わり大切にする力	・個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた学習内容の定着を図り、学びの意欲を高める。また、学年行事や学習において子どもたちの達成感が得られるような支援を行う。	・前期の支援計画や指導計画を振り返り、より実態に合わせて取り組んでいく。体験的な活動や学習を通して、人との関わりや学習面など様々な場面に生かし、経験を増やしていく。